

公 開  
資料 3

第 3 9 4 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和 7 年 1 月 27 日

日 本 学 術 会 議

### III 公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係について は概要を記載)		説明者	根拠規定等
<b>1. 委員会関係</b>						
提案 1  (幹事会附置委員会) 科学的助言等対応委員会 委員会委員の決定（追加 1 件）	会長	4	科学的助言等対応委員会委員を決定する 必要があるため。		磯副会長	内規12条 2 項
提案 2  (機能別委員会) (1)委員会委員の決定 (追加 2 件) (2)分科会委員の決定 (追加 1 件) (3)小委員会委員の決定 (追加 1 件)	会長	5	選考委員会、国際委員会及び科学者委員会における委員会委員、分科会委員及び小委員会委員を決定する必要があるため。	会長、日比谷副会長、三枝副会長	(1)内規12条 2 項 (2)(3)内規 18条	
提案 3  (分野別委員会合同分科会) 第二部合同分科会委員の決定（追加 1 件）	第二部長	6	第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員を決定する必要があるため。	第二部長	内規18条	
提案 4  (分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正（構成変更 1 件） (2)小委員会委員の決定（追加 1 件）	(1)電気電子工学委員会委員長 (2)第三部長	7	小委員会の構成変更に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分野別委員会における小委員会委員を決定する必要があるため。	第三部長	(1)会則27 条 1 項 (2)内規18 条	
<b>2. 提言等関係</b>						
提案 5  提言「研究の活性化へ 向けた研究評価の具体的な改善方策」について日本学術會議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	科学者委員会 研究評価分科会委員長	別冊 1	科学者委員会研究評価分科会において、 提言を取りまとめたので、関係機関等に 対する提言として、これを外部に公表す ることとした。  ※科学的助言等対応委員会査読中	科学者委 員会研究 評価分科 会尾崎紀 夫委員長	内規 2 条 5 項	
提案 6  提言「研究力の危機と 再構築： 我が国の学 術と社会の持続的発 展に向けて」について日 本学術會議会則第2条 第3号の「提言」とし て取り扱うこと	我が国の学術 の発展・研究 力強化に關す る検討委員会 委員長	別冊 2	我が国の学術の発展・研究力強化に關す る検討委員会において、提言を取りまとめ たので、関係機関等に對する提言とし て、これを外部に公表することとした。  ※科学的助言等対応委員会査読中	我が國の 学術の發 展・研究 力強化に 關する檢 討委員會 林隆之委 員長	内規 2 条 5 項	

### 3. 協力学術研究団体関係

提案7	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	10	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとした。 ①一般社団法人 日本小児理学療法学会 ②日本情報デザイン学会 ③一般社団法人 日本栄養学教育学会  ※令和7年11月27日現在2,208団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
-----	-----------------------	----	----	--	-------	-------

### 4. 国際関係

提案8	令和7年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	11	令和7年度代表派遣について、実施計画の変更をする必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第21条
提案9	令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、変更すること	会長	12	令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、変更をする必要があるため。  ※国際委員会11月26日承認、同アジア学術会議等分科会11月12日承認	日比谷副会長	令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等代表派遣の基本方針

### 5. シンポジウム等

提案10	公開シンポジウム「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第3回】遺伝資源と持続可能な社会」の開催について	農学委員会委員長	13	主催：農学委員会育種学分科会 日時：令和7年12月12日（金）12:00～13:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム「人口10万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」の開催について	農学委員会委員長	15	主催：農学委員会地域総合農学分科会 日時：令和8年1月8日（木）13:00～15:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進」の開催について	基礎医学委員会委員長	17	主催：基礎医学委員会機能医科学分科会 日時：令和8年1月9日（金）13:00～17:35 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム「第19回情報学シンポジウム—量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望—」の開催について	情報学委員会委員長	20	主催：情報学委員会 日時：令和8年1月14日（水）13:00～17:10 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム「知の創造を支える人財とは何か？～AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて～」の開催について	若手アカデミー	22	主催：若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会 日時：令和8年1月28日（水）14:00～17:00 場所：筑波大学（茨城県つくば市）（ハイブリッド開催）	—	内規別表第2

提案15	公開シンポジウム 「マテリアル融合：物質・エネルギー・情報技術融合による新たな元素戦略」の開催について	化学委員会委員長	25	主催：化学委員会無機化学分科会 日時：令和8年1月31日（土）13:30～17:40 場所：東京大学化学本館5階講堂（東京都文京区） <b>※第三部承認</b>	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム「AI時代における統計科学・データサイエンスの役割と挑戦 ---公平性、信頼性、解釈可能性、AIガバナンスの観点から」	数理科学委員会委員長、情報学委員会委員長	28	主催：数理科学委員会数理統計学分科会、数理科学委員会数学教育分科会、数理科学委員会数学分科会、情報学委員会情報学教育分科会 日時：令和8年2月17日（火）13:00～16:30 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） <b>※第三部承認</b>	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「One Health時代における獣医学の使命ーくらし・いのち・地球を繋ぐー」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	30	主催：食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 日時：令和8年2月21日（土）13:00～17:00 場所：オンライン開催 <b>※第二部承認</b>	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム「環境化学物質の健康影響、その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて：2.曝露測定-何をどのように測定するか」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長	32	主催：環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、第96回日本衛生学会学術総会、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業No） 「種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明とQOL向上、社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究」班 日時：令和8年3月21日（土）15:30～17:30 場所：栃木県総合文化センター（栃木県宇都宮市） <b>※第三部承認</b>	—	内規別表第2

## 6. 後援

提案19	国内会議の後援すること	会長	35	以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとした。  ・日本政府観光局（JNTO）・国際会議主催者セミナー ・第35回国際MICEエキspo（IME2026） ・日本天文学会ジュニアセッション ・日本天文学会全国同時七夕講演会2026 ・2025年度全国公正研究推進会議	—	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	-------------	----	----	---	---	-----------------

## 7. その他

件名	資料(頁)
参考 今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は12月23日（火）14:30～開催予定。	37

提案 1

【幹事会附置委員会】

- 委員会委員の決定（追加 1 件）  
(科学的助言等対応委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
玉腰 晓子	北海道大学大学院医学研究院教授	第二部幹事 第二部会員

【設置：第 357 回幹事会（令和 5 年 10 月 27 日）、決定後の委員数：10 名】

## 【機能別委員会】

○委員会委員の決定（追加 2 件）

(選考委員会)

氏名	所属・職名	備考
玉腰 晓子	北海道大学大学院医学研究院教授	第二部会員 第二部幹事
古屋敷 智之	東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授／神戸大学大学院医学研究科特命教授	第二部会員 第二部幹事

【設置：常置（細則第 10 条第 1 項）、追加決定後の委員数：16 名】

(国際委員会)

氏名	所属・職名	備考
大垣 昌夫	同志社大学経済学部特別客員教授	第一部会員

【設置：常置（細則第10条第1項）、追加決定後の委員数：13名】

○分科会委員の決定（追加 1 件）

(国際委員会科学者に関する国際人権対応分科会)

氏名	所属・職名	備考
江島 晶子	明治大学法学部教授	連携会員

【設置：第 358 回幹事会（令和 5 年 11 月 27 日）、追加決定後の委員数：5 名】

○小委員会委員の決定（追加 1 件）

(科学者委員会学術研究振興分科会未来の学術振興構想評価小委員会)

氏名	所属・職名	備考
山口 香	筑波大学体育系教授	第二部会員

【設置：第 392 回幹事会（令和 7 年 9 月 26 日）、追加決定後の委員数：56 名】

提案3

【分野別委員会合同分科会】

○分科会委員の決定（追加1件）

(第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会)

氏名	所属・職名	備考
近藤 科江	国立高等専門学校機構奈良工業高等専門学校校長／東京工業大学特定教授・名誉教授	連携会員

【設置：第370回幹事会（令和6年8月30日）、追加決定後の委員数：14名】

分野別委員会運営要綱（平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
電気電子工学委員会URSI分科会	(略)	(略)	(略)	(略)	電気電子工学委員会URSI分科会	(略)	(略)	(略)	(略)
電気電子工学委員会URSI分科会電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	電気電子工学委員会URSI分科会電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	1. 国内外の関係機関における電波利用の共存に関する技術基準・勧告・認証法等の具体例や、多様なステークホルダーから実例及び課題を収集し、有効性とリスクに関する指標などの成果や情報をデータベースとして蓄積、公開 2. 事例からレギュラトリーサイエンスに基づいた共存条件を導き出し現実の共存条件と比較し、問題点や意思決定プロセスでの課題の明確化、高度な共存に向け電波利用の指標を精緻化し、実験実証等により指標の評価や導入法等を確立 3. 電波の科学・商業・公共利用における電波の被干渉と与干渉に係わる電波利用者、法制度整備や認証を管轄する行政機関、サービス提供者、標準化組織などの産業界と協議し、課題と解決策の継続的な学術振興を推進 4. 以上の目標に向け、他の小委員会との連携、検討成果の公開、URSI本部への上申に係る審議に関すること	35名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和7年3月31日～令和8年9月30日	1. 国内外の関係機関における電波利用の共存に関する技術基準・勧告・認証法等の具体例や、多様なステークホルダーから実例及び課題を収集し、有効性とリスクに関する指標などの成果や情報をデータベースとして蓄積、公開 2. 事例からレギュラトリーサイエンスに基づいた共存条件を導き出し現実の共存条件と比較し、問題点や意思決定プロセスでの課題の明確化、高度な共存に向け電波利用の指標を精緻化し、実験実証等により指標の評価や導入法等を確立 3. 電波の科学・商業・公共利用における電波の被干渉と与干渉に係わる電波利用者、法制度整備や認証を管轄する行政機関、サービス提供者、標準化組織などの産業界と協議し、課題と解決策の継続的な学術振興を推進 4. 以上の目標に向け、他の小委員会との連携、検討成果の公開、URSI本部への上申に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和7年3月31日～令和8年9月30日			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

## 附 則

この決定は、決定の日から施行する。

## 電気電子工学委員会 URSI 分科会小委員会の設置について

### 分科会等名：電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	電気電子工学委員会
2	委員の構成	<u>35</u> 名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	第25期日本学術会議における未来の学術振興構想「学術の中長期研究戦略」に提案し採択された「SDGsの達成に資する電波資源の科学・商業・公共利用におけるレギュラトリーサイエンスに基づくハーモナイゼーション」の研究計画を推進する体制を構築・強化し、電波資源の科学、産業、公共利用などの多様な利用者、研究者、管理者ならびに電波の測定、利用基準、制度などのあらゆる視点から、SDGs達成に向けての公平性、利便性などについて電波資源利用に係わるすべてのステークホルダによる合意を目指し、国際学術団体であるURSIが対象とする電波科学の全分野(URSI分科会の全小委員会)の協力により、当該課題への国際貢献に寄与するために設置する。
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外の関係機関における電波利用の共存に関する技術基準・勧告・認証法等の具体例や、多様なステークホルダから実例及び課題を収集し、有効性とリスクに関する指標などの成果や情報をデータベースとして蓄積、公開</li> <li>2. 事例からレギュラトリーサイエンスに基づいた共存条件を導き出し現実の共存条件と比較し、問題点や意思決定プロセスでの課題の明確化、高度な共存に向け電波利用の指標を精緻化し、実験実証等により指標の評価や導入法等を確立</li> <li>3. 電波の科学・商業・公共利用における電波の被干渉と与干渉に係わる電波利用者、法制度整備や認証を管轄する行政機関、サービス提供者、標準化組織などの産業界と協議し、課題と解決策の継続的な学術振興を推進</li> <li>4. 以上の目標に向け、他の小委員会との連携、検討成果の公開、URSI本部への上申に係る審議に關すること</li> </ol>
5	設置期間	令和7年3月31日～令和8年9月30日
6	備考	※委員の構成の変更(20名から35名に変更)

**【分野別委員会】**

○小委員会委員の決定（追加 1 件）

（電気電子工学委員会 URSI 分科会電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会）

氏名	所属・職名	備考
新永 浩子	鹿児島大学学術研究院理工学域理学系准教授	連携会員

【設置：第 382 回幹事会（令和 7 年 3 月 31 日）、追加決定後の委員数：26 名】

## 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概要
1	一般社団法人 日本小児理学療法学会 ( <a href="https://www.jspt.or.jp/jsppt/">https://www.jspt.or.jp/jsppt/</a> )	本団体は、小児理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とする目的とするものである。
2	日本情報デザイン学会 ( <a href="http://info-design.org/">http://info-design.org/</a> )	本団体は、情報デザイン学に関する研究を推進し、広く情報デザインの理論・実務全般の向上に寄与することを目的とするものである。
3	一般社団法人 日本栄養学教育学会 ( <a href="https://www.dobun.co.jp/JANE/">https://www.dobun.co.jp/JANE/</a> )	本団体は、栄養学教育に関する研究の充実発展並びにその成果を社会に普及させることを目的とするものである。

## 令和7年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第381回幹事会(令和7年2月27日)にて承認済)の変更を行う。

	会議名称	会期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推薦	内容
1	第82回国際地質科学連合(IUGS)理事会及び執行理事事務局会議 ↓ 第82回国際地質科学連合(IUGS)理事会(EC)、年次総会及びIUGSラテンアメリカ地球科学ワークショッピング	令和8年 3月17日 ~ 3月20日 ↓ 令和8年 1月22日 ~ 1月27日	パリ (フランス) ↓ ボゴタ (コロンビア)	大久保 泰邦 連携会員 (地熱技術開発株式会社・探査部・ 研究主幹)	地球惑星科学委員会 IUGS 分科会	•会議名等の変更

## 令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の変更について

以下のとおり、令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣(第 389 回幹事会(令和 7 年 8 月 29 日)の変更を行う。

	国際会議等	会期 計	開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考 (※ 1)
1	第 24 回アジア学術会議	11 月 16 日 ～ 11 月 18 日	3 日	瀧澤 栄 連携会員 (京都女子大学高等教育開発センター教授) ↓ 派遣の取り止め	第 1 区分
2				松山 亮太 連携会員(特任) (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門任期付研究員) ↓ 現地出席からオンライン出席に変更	
3				You-Cai Xiong (蘭州大学生態学部教授) ↓ 現地出席からオンライン出席に変更	
4	インターナショナルアカデミーパートナーシップ (IAP) 総会	12 月 8 日 ～ 12 月 11 日	4 日	エジプト (カイロ)  Demberel Sodnomtsambuu (モンゴル科学アカデミー会長)	第 3 区分 ・会議の追加

(※ 1) 令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和 7 年 2 月 27 日日本学術会議第 380 回幹事会決定)に基づく区分。

公開シンポジウム  
「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ  
【第3回】遺伝資源と持続可能な社会」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年12月12日（金）12:00～13:30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中で、「育種」は安定した食料生産と社会課題の解決、そして地球環境の保全に直結する重要な領域である。

本ウェビナーシリーズでは、育種分野の第一線の専門家を招き、現場の課題から人材育成・知的財産・社会との関わりまで、多角的に議論する。水産・作物をテーマとした第1回、畜産分野の育種と次世代の人材育成に焦点を当てた第2回に続き、第3回では「遺伝資源と持続可能な社会」というテーマで、遺伝資源の面白さと重要性、さらに遺伝資源を利用した育種と持続的な社会の実現を議論する。
9. 次 第：
  - 12:00 開会の挨拶  
辻本 壽（日本学術会議連携会員／鳥取大学名誉教授（乾燥地研究センター学長顧問））
  - 12:05 「いざという時のための遺伝資源」  
内藤 健（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構遺伝資源研究センター上級研究員）

- 12:40 「ブリーダーにとっての遺伝資源」  
新倉 聰（タキイ種苗株式会社研究農場次長）
- 13:15 まとめ  
磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究所教授）
- 13:25 総合討論  
進行  
佐藤 豊（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム  
「人口 10 万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生物環境工学会、公益社団法人農業農村工学会、農村計画学会（すべて予定）
4. 日 時：令和8（2026）年1月8日（木）13:00～15:30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：  
大都市圏を国際競争力維持のために一層発展させると同時に、地方都市を「産業の場」「食料供給（農業）の場」「居住の場」として機能させ、国全体として分散型社会を構築することは、わが国の本質的な課題である。地方都市が有する機能には農業を中心とした一次産業が大きく貢献していることから、人口減少下においても効率的な食料生産を可能にする営農技術の確立、気象災害の激甚化に影響を受けにくい食料生産基盤の整備、地域資源を活用する自立分散型の農村の構築及び土地利用の最適化などに向けた取り組みが今後ますます重要になる。  
本シンポジウムは、地域総合農学の視点から、人口 10 万人規模の地方自治体の第一次産業の多様な貢献について紹介するとともに現場での課題などを取り上げ、持続可能な国土の未来を考える機会として開催する。

9. 次 第：

- 13:00 開会挨拶・趣旨説明  
『本シンポジウムの狙い：「人口 10 万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」とは』  
仁科 弘重（日本学術会議連携会員／愛媛大学学長）
- 13:20 『地方都市周辺における農の保全に向けた土地利用制度・農地制度の課題』  
武山 純美（日本学術会議連携会員／京都大学大学院地球環境学堂教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）  
弓削 こずえ（日本学術会議連携会員／佐賀大学農学部教授）
- 13:40 『農が都市にもたらす生態系サービス』  
大黒 俊哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 14:00 『地方都市周辺での効率的な農業を目指す農環境センシング技術』  
本間 香貴（日本学術会議連携会員／東北大学大学院農学研究科教授）
- 14:20 コメント・参加者からの質疑応答
- 15:00 閉会挨拶  
後藤 英司（日本学術会議第二部会員／千葉大学大学院園芸学研究院教授）
- 司会：弓削 こずえ（日本学術会議連携会員／佐賀大学農学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会機能医科学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本医学会連合領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進」
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年1月9日（金）13:00～17:35
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

人々の活動は、地球温暖化や耐性菌の出現など、地球環境や生態系にかく乱をもたらしています。一方、人々の活動による地球環境や生態系の変容は、疾患を誘引し、健康長寿社会を阻むことが危惧されています。よって、健康長寿社会の実現には、ヒトの健康のみならず、ヒトや動植物を含めた地球全体の健全を一体化して捉える「ワンヘルス」の学理が必要です。

そこで、日本学術会議未来の学術振興構想の「学術の中長期研究戦略」として「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究のサステナブル循環システムの構築」を提案しました。この構想の実現に向けて、基礎医学・社会医学・臨床医学の学会が日本医学会連合 TEAM 事業の財政的支援を受けて、「ワンヘルスの実現を目指した生命科学研究の推進」（2024～2025年度）において領域横断的に連携して活動しています。

本シンポジウムでは、ワンヘルスに関する4つの課題、「ホメオスタシス（生体恒常性の維持と破綻）」、「エクスプローム（環境との相互作用）」、「センシング（環境受容・応答）」、「デジタル（未病予測、新興感染症対策）」について、最新知見を紹介し論議することを通じて、情報と課題を共有し、有機的な連携を推進します。

## 9. 次 第 :

開会の辞・挨拶

13:00 岡村 康司 (日本学術会議第二部会員／大阪大学大学院医学系研究科教授)

高橋 雅英 (一般社団法人日本医学会連合副会長 (基礎部会) ／藤田医科大学研究統括監理部特命教授)

第1セッション「ホメオスタシス」

◇第1部総合司会

赤羽 悟美 (日本学術会議連携会員／東邦大学医学部教授)

13:05 『ワンヘルスへの取り組み：日本および海外の現状と課題』

諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所薬理部部長)

13:30 『環境変動に対する生理的応答』

中村 和弘 (名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻細胞科学教授)

13:55 『多剤耐性菌に対するワンヘルスの取り組み』

館田 一博 (東邦大学医学部医学科教授)

休憩 (10分) (14:20～14:30)

第2セッション「エクスポソーム」

◇第2部総合司会

西田 基宏 (日本学術会議連携会員 (特任) ／九州大学大学院薬学研究院教授)

14:30 『地球温暖化の健康への影響』

橋爪 真弘 (東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻国際保健政策学教授)

14:55 『エクスポソームと子供の健康』

池田 敦子 (北海道大学大学院保健科学研究院教授)

15:20 『エクスポソームと動物の健康』

石塚 真由美 (日本学術会議連携会員／北海道大学大学院獣医学研究院教授)

休憩 (10分) (15:45～15:55)

第3セッション「センシング」と「デジタル」

◇第3部総合司会

日比野 浩 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院医学系研究科教授)

15:55 『環境ストレスによる内分泌機能のかく乱』

小川 佳宏 (九州大学大学院医学研究院病態制御内科学教授)

16:20 『Brain Machine Interface とワンヘルス』

平田 雅之 (大阪大学大学院医学系研究科脳機能診断再建学共同研究講座特任教授)

16:45 『デジタルツインの構築と応用』

合原 一幸 (東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研

究機構副機構長)

17:10 総合討論

指定討論者 高橋 優子（日本学術会議連携会員／北里大学医学部医学科教授）

横山 詩子（日本学術会議連携会員／東京医科大学細胞生物学分野主任教授）

結語 赤羽 悟美（日本学術会議連携会員／東邦大学医学部教授）

17:30 閉会の辞

金井 好克（日本学術会議第二部会員／大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点特任教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

## 公開シンポジウム

「第 19 回情報学シンポジウム—量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望—」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会

2. 共 催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（予定）

3. 後 援：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人  
映像情報メディア学会、一般社団法人大学 ICT 推進協議会（予定）

4. 日 時：令和 8（2026）年 1 月 14 日（水）13:00～17:10

5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）

6. 一般参加の可否：可

一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

量子技術は過去 10 年間で世界的に大きな発展を遂げているものの、日本においては研究・産業面での国際競争力の低下と深刻な人材不足が強く懸念されています。この度、日本学術会議が「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望」を公表する運びとなりました。この提言は、これらの状況が生み出す研究開発、教育、社会実装上の様々な懸念を見据え、量子未来社会の健全な発展のために、技術の発展段階を共有し、今なすべきことを学術の立場からまとめたものです。シンポジウムでは、提言が提示する「量子科学技術政策立案に向けた具体的な推進戦略」（基礎研究と研究力強化、大規模開発への学術との協働、人材育成戦略）と「量子未来社会実現へ向けた構造的な課題への取り組み」（国際戦略、イノベーション、産業人材構造変革、社会の受容性の促進）の二つの観点から、提言の本質である量子技術の特質（広がり、インパクト、長期性）を理解し、産官学すべてのステークホルダーが協働し議論する場にしたいと思っています。

9. 次 第（敬称略）：

司会 佐古 和恵（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院教授）

13:00 開会挨拶 下條 真司（日本学術会議第三部会員／青森大学ソフトウェア情報学  
部教授／大阪大学名誉教授）

## 第一部 情報技術に関する政策

13:10 阿部 陽一（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

「情報科学技術関連の政策動向等について（仮）」

13:30 根本 香絵（日本学術会議連携会員／沖縄科学技術大学院大学量子アーキテクチャユニット教授／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所特任教授）

日本学術会議提言「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望」について（仮）

## パネル

14:00 パネルディスカッション

「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望」

(司会&ファシリテーター)

(パネリスト) 田渕 敬一（文部科学省学術振興局基礎基盤研究課量子研究推進室長）  
経産省、総務省から

17:00 閉会挨拶 黒橋 穎夫（日本学術会議第三部会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長／京都大学大学院情報学研究科特定教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム  
 「知の創造を支える人財とは何か?  
 ~AI for Science と研究基盤に焦点を当てて~」  
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会、  
 一般社団法人研究基盤協議会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8年（2026年）1月28日（水）14:00～17:00
5. 場 所：筑波大学・大学会館国際会議室（茨城県つくば市天王台1丁目1-1）  
 （ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
 一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：令和8年（2026年）1月29日（木）10:00～11:30  
 （調整中）
8. 開催趣旨：  
 知の継承・創造・活用を通じて、世界の知的フロンティアを牽引することが期待される我が国において、学術の持続的な発展を支える研究者、技術職員、事務職員、およびURA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）といった多様な研究人財（「人は財（たから）である」との意味を込めて、タイトル及び本開催趣旨では「人材」ではなく「人財」と表記する）は、極めて重要な存在である。  
 しかし、博士課程への進学者数の減少や、学術分野への就職機会の限定などにより、これらの人財の確保が年々困難になっており、我が国の研究基盤にとって深刻な課題となっている。とりわけ近年、急速な技術革新と社会的ニーズの高まりを背景として、「AI for Science」や「特定先端大型研究施設」の分野における研究人財への需要が顕著に増している。  
 こうした状況に鑑み、本シンポジウムでは、これから学術を支える研究人財に求められる資質・能力とは何か、また、それらの研究人財をいかにして確保し、体系的に育成していくべきかについて、実践的な議論を行う。

本シンポジウムは、日本学術会議若手アカデミーに加え、一般社団法人研究基盤協議会と文部科学省の各立場より登壇者を迎える、アカデミア、実務、政策という異なる視点から課題を共有し、次世代の研究人財育成に向けた具体的かつ建設的な提言を行うことを目的とする。また、将来の学術を担う大学院生（修士課程・博士課程）や若手研究者の積極的な参加を歓迎し、彼らがキャリア形成を考える上での視座やヒントを得る機会としたい。

## 9. 次第：

### ◇司会

山田 知沙（一般社団法人研究基盤協議会技術職員・コンソーシアムコーディネーター／山口大学総合技術部技術専門職員）

14:00 開会挨拶

小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

14:10 活動紹介

小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大學戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

未定（文部科学省科学技術「次の一手」チームの構成員）

14:30 パネルディスカッション

### ◇ファシリテーター

小川 剛伸（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員長／京都大学大学院農学研究科助教）

### ◇パネリスト

杉本 舞（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員／関西大学社会学部教授）

川口 慎介（日本学術会議連携会員／若手アカデミーワーク・ライフ・バランス分科会委員長／国立研究開発法人海洋研究開発機構上席研究員）

未定

未定

池田 徳菜（仮）（文部科学省科学技術「次の一手」チームの構成員）

並木 茂朗（仮）（文部科学省科学技術「次の一手」チームの構成員）

廣江 永（仮）（文部科学省科学技術「次の一手」チームの構成員）

16:25 質疑応答

江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

16:40 総括・閉会挨拶

江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

10. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

## 公開シンポジウム

「マテリアル融合：物質・エネルギー・情報技術融合による新たな元素戦略」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会無機化学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人日本化学会（予定）
4. 日 時：令和8（2026）年1月31日（土）13:30～17:40

5. 場 所：東京大学化学講堂（東京都文京区本郷7丁目3-1 化学本館5階）

6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

私たちの社会は、あらゆる「元素」に支えられている。スマートフォンのディスプレイや医薬品、電気自動車の電池、再生可能エネルギーの装置——それの中では、鉄や炭素だけではなく、リチウム、ネオジム、ガリウムなど多様な元素が活躍している。こうした「全元素」を有効に活用し、新しい物質や機能を生み出すことが、持続可能な社会の実現に欠かせない。

日本は資源こそ限られているが、マテリアル（ナノテク・物質・化学・材料）の分野では世界をリードする研究力を有している。その強みを生かし、限られた資源を最大限有効に使う学問的・技術的基盤を築くことを目指しており、日本学術会議の提言「未来の学術振興構想（2023年版）」では、「元素戦略2.0」を、「グランドビジョン⑮持続可能社会に資する革新的な物質・材料の開拓」に所属する「学術の中長期研究戦略」の一つに位置付けている。この「元素戦略2.0」では、元素の融合的利用や循環を通じた新しい研究基盤の構築が示されている。

その後わずか数年の間に、人工知能（AI）やロボティクス、機械学習を活用した研究手法が急速に進展した。AIが分子や材料の性質を予測し、ロボットが自動で実験を行い、研究者がその結果を解析して次の発見へとつなぐ——こうした「人とAIが協働する科学」が現実のものとなりつつある。世界ではすでに数百億円規模の投資が進み、AI駆動型の材料開発競争が激しくなっている。

このような時代に、日本が培ってきたマテリアルの知を、AI・データ・ロボット技術と

融合させ、「全元素を活用した次世代のマテリアル創製環境」を構築することが急務である。それは単に新物質を生み出すだけでなく、人の感性や経験をデジタル化して学術の発展に活かす、まったく新しい研究のあり方を切り拓くものである。このあり方をここではマテリアル融合と呼ぶ。

本シンポジウムでは、こうした理念のもとに、

- ・AI やロボットが変える研究とものづくりの最前線
- ・全元素の活用が拓く新しいエネルギー・資源循環社会
- ・人と機械が協働する研究開発の未来像
- ・産業界における機械学習によるものづくりの現状と今後

をテーマに、産官学界の第一線で活躍する講演者による発表とパネル討論を行う。文部科学省研究振興局長を招聘し、政府のマテリアル戦略と AI for Science に関わる構想や期待をご教授頂く予定である。

パネル討論では、異なる分野の研究者や産業界のリーダーが一堂に会し、「マテリアル融合」が生み出す新たな科学と社会の形について、自由闊達に意見を交わす。学術界、産業界、政策関係者、そして市民が未来をともに考えるこの場が、次世代の「元素戦略」へつながる出発点となることを目指す。

なお、本シンポジウムは、無機化学分科会を中心となり発出予定の「見解」と同タイトルである。実際に学術界あるいは産業界で見解の趣旨に近い課題を見出して解決に取り組んでいる研究者から、直接意見を伺う機会となる。そうして、「元素戦略」の永続的な必要性を公に示す機会として位置付けられる。

本企画は、「見解」の発出に向け、無機化学分科会を中心となり、有機化学分科会、材料化学・分析化学分科会、生体関連化学分科会、高分子化学分科会、IUPAC 分科会、IUCr 分科会、結晶学分科会ならびに物理化学・生物物理化学分科会および外部有識者を含む拡大員会での連携によるものである。

## 9. 次 第（案）：

13:30 開会の辞 長谷川 美貴（日本学術会議連携会員／青山学院大学理工学部化学・生命科学科教授）

13:40 趣旨説明 北川 宏（日本学術会議第三部会員／京都大学大学院理学研究科教授）

13:50 御挨拶 淵上 孝（文部科学省研究振興局長）

### 第1部 データサイエンスとマテリアル融合

司会：所 裕子（日本学術会議連携会員／筑波大学数理物質系教授）

大河内 美奈（日本学術会議連携会員／東京科学大学物質理工学院教授）

14:00 常行 真司（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院理学系研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所最先端研究プラットフォーム連携(TRIP)  
事業本部 統合データ・計算科学プログラムプログラムディレクター）

14:30 広川 貴次（筑波大学医学医療系教授）

15:00 休憩（15分）

## 第2部 機械学習やロボットの活用による元素戦略と未来材料

司会：常行 真司（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院理学系研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所最先端研究プラットフォーム連携(TRIP)事業本部 統合データ・計算科学プログラムディレクター）  
北川 宏（日本学術会議第三部会員／京都大学大学院理学研究科教授）  
15:15 一杉 太郎（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科教授）  
15:45 出村 雅彦（国立研究開発法人物質・材料研究機構技術開発・共用部門部門長／理事長特別補佐）  
16:15 森田 秀和（株式会社日立製作所公共システム事業部デジタルソリューション推進部部長）  
16:45 休憩（15分）  
16:55 総合討論  
ファシリテーター：一杉 太郎（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科教授）  
17:35 閉会の辞 伊東 忍（日本学術会議連携会員／大阪大学産業科学研究所招聘教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
 「AI 時代における統計科学・データサイエンスの役割と挑戦 ——  
 公平性、信頼性、解釈可能性、AI ガバナンスの観点から」  
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会、数学教育分科会、数学分科会、情報学委員会情報学教育分科会
2. 共 催：特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、一般社団法人統計関連学会連合、一般財団法人統計質保証推進協会
3. 後 援：応用統計学会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人工知能学会、一般社団法人日本経済学会、一般社団法人日本計算機統計学会、一般社団法人日本計量生物学会、日本行動計量学会、一般社団法人日本数学会、一般社団法人日本統計学会、一般社団法人日本品質管理学会、日本分類学会
4. 日 時：令和8（2026）年2月17日（火）13:00～16:30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
 一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
 AI 技術が社会や産業に急速に浸透しつつある現代において、統計学やデータサイエンスは、AI システムの設計や運用においてどのような役割を果たし、どのような課題を取り組むべきであろうか。この議論を「公平性」「信頼性」「解釈可能性」「AI ガバナンス」の観点から掘り下げる。また、AI 技術の日常生活への浸透を踏まえて、初等中等教育における統計教育に期待されることは何かを議論する。
9. 次 第：

13:00 開会挨拶 青嶋 誠（日本学術会議連携会員／筑波大学数理物質系教授）  
 第一部 講演 司会 佐藤 忠彦（日本学術会議連携会員／筑波大学ビジネスサイエンス系教授）  
 13:15 深層学習モデルの統計的推論 一選択的推論のアプローチから一

竹内 一郎（名古屋大学大学院工学研究科機械システム工学専攻機械知能学教授／国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター  
データ駆動型実験デザインチームチームディレクター）

13:45 AIにおけるバイアスと公平性

荒井 ひろみ（国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター人工  
知能安全性・信頼性ユニットユニットリーダー）

14:15 初中等教育・高等教育における新たな統計教育と探究的活動

椿 広計（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究  
機構データサイエンス共同利用基盤施設副施設長）

休憩(15分) 14:45～15:00

## 第二部 パネルディスカッション

司会 松井 知子（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人情報・システム研  
究機構統計数理研究所研究主幹／教授）

15:00 AIの不確実性への挑戦－高次元小標本の統計学からのアプローチ

青嶋 誠（日本学術会議連携会員／筑波大学数理物質系教授）

15:15 医療統計学の観点から

松山 裕（東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻生物統計学分野教授）

15:30 AI時代の統計科学の構築と展開－理論・学際・社会をつなぐ

荒木 由布子（日本学術会議連携会員／東北大学大学院情報科学研究科教授）

15:45 総合討論

16:25 閉会挨拶 西郷 浩（日本学術会議連携会員／早稲田大学政治経済学術院教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
 「One Health 時代における獣医学の使命—くらし・いのち・地球を繋ぐ—」  
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：全国大学獣医学関係代表者協議会、公益社団法人日本獣医学会、厚生労働省、農林水産省、環境省（すべて予定）
4. 日 時：令和8（2026）年2月21日（土）13:00～17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
 一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：  
 ヒト・動物・環境の健康は相互に結びつき、感染症、気候変動、食と地域の安全などの課題は単独の分野では解けない。本シンポジウムは、One Health を核に One Welfare・One Medicine を統合し、国内の大学・研究拠点がネットワークとして連携することで、日本発の実装モデルを共創することを目的とするものである。日本ではいち早く複数の獣医系大学に、これに関連する研究拠点が設立された。研究知を社会に接続し、現場データの共有、評価指標の整備、人材育成、政策提言へつなぐ協働の枠組みを提示し、市民・行政・産業とともに“持続可能で心地よい共生”の具現化について、本シンポジウムを通じて考える。
9. 次 第：  
 13:00  
 <開会の挨拶>  
堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授）
- 司会：水谷 哲也（日本学術会議連携会員／東京農工大学農学部附属感染症未来疫学研究センター教授（ワンウェルフェア高等研究所教授））  
 13:10  
 講演1 「One Health for One Future：健全な生活環境を次世代に」  
堀内 基広（北海道大学 One Health リサーチセンター長／教授）
- 13:40

講演2：「ワンウェルフェア×獣医工連携：ヒト・動物・環境の“心地よい”共生」

大場 真己（東京農工大学ワンウェルフェア高等研究所准教授）

14:10

講演3：「One Welfare の実現に向けて：法獣医学の観点から」

田中 亜紀（日本獣医生命科学大学ワンヘルス・ワンウェルフェアセンター長  
／特任教授）

14:40 — 14:50 <休憩>

14:50

講演4：「ヒトと動物の互恵的共生：麻布大学の新たな試み」

菊水 健史（日本学術会議連携会員／麻布大学獣医学部教授（ヒトと動物の共生  
科学センター教授）

15:20

講演5：「Sharing Medicine の現在地と未来：ヒトと動物の医療連携の可能性」

前田 貞俊（岐阜大学 One Medicine トランスレーショナルリサーチセンター教  
授）

15:50

講演6：「地域ニーズに応えるワンウェルフェア～獣医学で高める動物とヒトのQOL  
～」

牛根 奈々（山口大学 One Welfare 国際研究センター助教）

16:20 — 16:30 <休憩>

16:30

<パネルディスカッション>

堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学  
研究室教授）

水谷 哲也（日本学術会議連携会員／東京農工大学農学部附属感染症未来疫学研究セ  
ンター教授（ワンウェルフェア高等研究所教授））

上記のスピーカー

17:00

閉会の挨拶

堀内 基広（北海道大学 One Health リサーチセンター長／教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

## 公開シンポジウム

「環境化学物質の健康影響、その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて：

2. 曝露測定-何をどのように測定するか」の開催について

1. 主 催：環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、一般社団法人日本衛生学会、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業 No 「種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明 QOL 向上、社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究」班

2. 共 催：なし

3. 後 援：国立医薬品食品衛生研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、一般社団法人日本環境化学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人日本毒性学会、日本内分泌搅乱物質学会、日本免疫毒性学会、一般社団法人日本 DOHaD 学会、日本臨床環境医学会（予定）

4. 日 時：令和 8（2026 年）3 月 21 日（土）15：30～17：30

5. 場 所：栃木県総合文化センター（栃木県宇都宮市本町 1-8）

6. 一般参加の可否：可

一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

もともと天然に存在する化学物質や新たに合成された化学物質の中で、生活環境中に放出される物質が環境化学物質と呼ばれている。環境化学物質の種類や量は、現代の生活において化学物質の利用や各種の人間活動の増大に伴って増加しているが、その中にはヒトや生態系に悪影響を及ぼす可能性をもつ物質も存在する。

我が国のかつての公害をはじめ、人類は高用量の環境化学物質曝露による甚大な健康被害を経験した。その後各国では悪影響の防止につながる様々な研究や施策が実施されてきた。しかし近年では、環境化学物質がこれまで考えられていたよりも低用量で健康に悪影響を及ぼすことを示す新たな知見が得られている。また曝露後に影響が遅発的に現れる例や世代を越える可能性など、これまで一般的には想定されていなかった影響発現様式も報告されている。その中には、環境中の微量な化学物質に起因して多様な健康影響が報告されている化学物質過敏症に関する課題もあり、国民の関心も高い。

このような状況を踏まえ、現在から将来にわたって人類が健康的な生活環境を維持する

ためには、環境化学物質全体を視野に入れてリスクの大きさを推定し、管理につなげることが求められる。リスクの全体像を把握するためには、未解明な環境化学物質の作用様式を明らかにし、ヒトに対する影響を把握し、また曝露を評価する研究を進める必要がある。同時に、環境化学物質の健康影響についての国民一人一人の理解も重要である。

この問題に関する課題は多岐にわたることから、総合的・俯瞰的な見地から学術分野横断的に検討することが有用と考える。そこで、多分野の関係者が一堂に会して議論を行う場をもつことを企画し、2025年12月には、日本学術会議主催学術フォーラム「環境化学物質の健康影響、その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて：1. 環境化学物質の健康影響とは」を開催し、環境化学物質の健康影響に関わる課題全般を議論した。本公開シンポジウムでは、環境化学物質の曝露に関する課題を中心に、低用量で健康に悪影響を及ぼす環境化学物質について議論する。

## 9. 次 第：

座長：野原 恵子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所客員研究員・名誉研究員）

中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

15:30 開会挨拶：未定

15:35 講演

「環境中化学物質の複合曝露の包括的な計測に向けて」

中島 大介（国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康領域副領域長）

16:00 質疑応答

16:05 講演

「環境医学のインテリジェンス—ネオニコチノイドと化学物質過敏症」

平 久美子（東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科非常勤講師）

16:30 質疑応答

16:55 講演

「健康リスク評価のための個体曝露量測定」

上島 通浩（名古屋市立大学大学院医学研究科環境労働衛生学分野教授）

17:00 質疑応答

17:05 講演

「大気汚染物質の健康影響と気温」

上田 佳代（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

17:20 質疑応答

17:25 閉会挨拶：未定

## 10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

○国内会議の後援（5件）

以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 日本政府観光局（JNTO）・国際会議主催者セミナー

主催：日本政府観光局（JNTO）

期間：令和7年12月17日（水）

場所：東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

参加予定者数：約50名

申請者：日本政府観光局（JNTO）MICEプロモーション部長 異 麻里子

審議付託先：国際委員会

審議付託結果：国際委員会承認

2. 第35回国際MICEエキスポ（IME2026）

主催：一般社団法人日本コングレス・コンベンション・ビューロー（JCCB）

日本政府観光局（JNTO）

期間：令和8年2月12日（木）

場所：東京国際フォーラム 地下2階「ホールB5/B7」

参加予定者数：約80団体の出展、300名以上来場予定

申請者：一般社団法人日本コングレス・コンベンション・ビューロー（JCCB）

会長 猪口 邦子

審議付託先：国際委員会

審議付託結果：国際委員会承認

3. 日本天文学会ジュニアセッション

主催：公益社団法人日本天文学会

共催：一般社団法人日本天文教育普及研究会

期間：令和8年3月7日（土）

場所：日本天文学会春季年会会場（京都産業大学及びオンラインを予定）

参加予定者数：約400名

申請者：公益社団法人日本天文学会 会長 太田 耕司

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

4. 日本天文学会全国同時七夕講演会 2026

主催：公益社団法人日本天文学会

共催：一般社団法人日本天文教育普及研究会

期間：令和8年7月7日（火）及び伝統的七夕の日（令和8年は8月19日（水））  
を中心とした7～8月

場所：全国各地

参加予定者数：約10,000名

申請者：公益社団法人日本天文学会 会長 太田 耕司

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

5. 2025年度全国公正研究推進会議

主催：一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）

期間：令和8年2月6日（金）

場所：東京大学 伊藤国際学術研究センター

参加予定者数：約350名

申請者：一般財団法人公正研究推進協会 理事長 永井 良三

審議付託先：科学者委員会

審議付託結果：科学者委員会承認

○今後の予定

●幹事会

第395回幹事会	令和7年12月23日（火）	14：30から
第396回幹事会	令和8年1月27日（火）	14：30から
第397回幹事会	令和8年2月27日（金）	14：30から
第398回幹事会	令和8年3月23日（月）	10：00から

●総会

第196回総会	令和8年4月9日（木）～11日（土）
第197回総会	令和8年8月6日（木）～7日（金）